

学校の教育目標:いのちきらめく小原っ子の育成～「身につける」「つなぐ・ふり返る」「挑戦する」～

学校の教育目標 実現のための 喫緊の課題を 踏まえた 重点目標	重点目標に係る 目指すべき子どもの 姿となる 達成指標	達成指標を達成する または近づくための 重点的取組 ※到達像不要	重点的取組に係る 具体的な 取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で	担当	達成指標に対する 達成状況の確認		改善方策	関係者 評価 ○/4点	意見等						
					自己 評価	達成状況(エビデンス)									
<p>確かな学力の育成</p>	<p>国東市調査において、全ての調査学年、調査教科において全国平均クリア。 平成30年度 1年生:国語+6 算数+6.5 2年生:国語+8.7 算数+1.2 3年生:国語+3 算数+3.2 4年生:国語+16.3 算数+13.2 理科+19 5年生:国語+10.7 算数8.7 理科+10 6年生:国語+4.7 算数+5.4 理科+11.1</p> <p>【学期ごとの参考指標】 国語・算数の単元テストで達成目標値をクリアする割合を全学年80%以上にする。</p> <p>平成30年度 1年:国 89.8% 算 95.8% 2年:国 75.2% 算 80.9% 3年:国 66.3% 算 87.4% 4年:国 91.5% 算 89.1% 5年:国 84.0% 算 79.7% 6年:国 94.9% 算 87.5%</p>	<p>単元を通した学習のめあてと1時間のゴールがイメージできる課題を設定する。</p>	<p>○全ての学級で、毎時間、ねらいが明確なめあて・課題を提示する。 <めあて・課題とまとめ・振り返りの整合性></p>	<p>教務主任を中心としたチームA</p>	<p>A</p>	<p>【1学期の参考指標】 国語・算数の単元テストで達成目標値をクリアする割合を全学年80%以上にする。 ()は昨年度比 1年:国 89.2% 算 98.4% 2年:国 95.2%(+1.2)算 95.5%(±0) 3年:国 74.4%(+15.4)算 87.0%(+28.0) 4年:国 81.2%(+18.2)算 79.3%(+10.7) 5年:国 97.2%(+1.2)算 93.7%(+6.7) 6年:国 88.9%(-4.0)算 95.0%(±0)</p> <p>【1学期の考察より】 ・ひらがな50音を正しく読んだり書いたりできる。 ・たし算・ひき算の計算も正しくできる。 ・友だちの発表に反応できる子どもがいる。 ・進んで自分の考えを発表しようとする。 ・漢字練習の仕方が定着し、丁寧に練習できる。 ・計算ドリルなどの書き込みは定着してきた。 ・授業中も、自分の考えをもち発表し、友だちの意見もよく聞いて、同じところ違うところを見つけたことができた。体育では、下学年にポイントを教えるようであった。 ・漢字・計算ドリルなど基礎基本の家庭学習を忘れることなく、取り組んでいる。 ・家庭学習以外に目標時間を達成できるように自学や読書に取り組んでいる。 ・友だちの考えをしっかりと聞き、友だちの考えに付け加えたり、自分の考えを発表したりしている。 ・始業のチャイムが鳴る前に、自分たちが音読を始めている学年があった。</p>	<p>【1学期の考察より】 ●気になる子どもの姿 ・自分の考えを発表したら、それで満足して友だちの話がうまく聞けていないことがある ・発表に消極的な子もいる。 ・苦手なことにも挑戦しようとする姿はみられるが自分自身で限界を決めてしまうこともある。 ◆指導者としての課題 ・子どもの発表を教師が繰り返してしまうことが多い。 ・子どもが何を表現しようとしているのかを受け止めきれなくて、教師の言葉や考えで説明してしまうことがある。 ・授業後の板書を見て、書き方を変えていたら、子どもがつまづかなくなったのにと、反省することがあった。 ↓ 【改善点】 ○重点的取組の見直し及び取組指標の向上 ・単元を通した学習のめあてと1時間のゴールがイメージできる課題を設定する。 一学習のめあて(課題)と学習の振り返り(課題)の設定。 ・全ての学級で、毎時間、ねらいが明確なめあて・課題を提示する。 (めあて・課題とまとめ・振り返りの整合性) 一毎時間、ねらいが明確なめあて(課題)の提示と2単位時間に1回の振り返りの実施。(振り返り(まとめ)と次時のめあて(課題)の連続性) ・「30秒サイレンス」に「リボイスしない」を追加する。</p>	<p>4</p>	<p>○それぞれの統計はよく調査しており、分かりやすく良いと思った。少ない人数で大変だなと思った。 ○分析を良くして、感心した。 ○学力定着状況調査の結果を見て、取組が適切であることが伺える。各教科の分析結果をもとに問題点を見つけ、対応していただいていることはありがたい。 ○学力の定着度は立派である。 ◆わり算のポイントは、アルゴリズム(手順)に従って計算できるように指導すること。</p>						
										<p>学校 考えを比べ、判断するための場を設定する。</p>	<p>○全ての学級で、課題提示後、指導者の「30秒サイレンス」で子どもの思考を促す。 ○全ての学級で、毎時間、問題解決につながるキーワードや考え方を板書に位置づける。 <思考を促したり整理したりする発問・板書></p>	<p>生活指導主任を中心としたチームB</p>	<p>A</p>	<p>【豊かな心の育成達成指標】 小原っ子アンケートで下記の項目の評価平均値を3.8以上にする。 ()は昨年度1学期の数値 【1学期 児童アンケートより】 ①乱暴な言葉を使ったり、人の悪口を言ったりしていない。3.8/4点 (3.7) ②進んで挨拶をしている。3.7/4点 (3.8)</p> <p>【1学期の考察より】 ・少しずつではあるが、同じようなトラブルは減ってきている。 ・その子なりの声の大きさではあるが、自分からあいさつができるようになってきた。 ・冷静になってから、素直にあやまることができた。 ・小さいことではあるが、いいこと見つけが出来るようになってきた。(いいところに目が向くようになってきた。) ・帰りの会などで、友だちのよい行いを見つけ発表することができる子がいる。 ・友だちや下学年のよい所を帰りの会や学級会で発表する姿が見られる。 ・田植えや香々地宿泊体験の時も、進んで伝わる声であいさつができた。</p>	<p>【1学期の考察より】 ●気になる点 ・自分中心の子どもがほとんどで、自分の周りにいる友だちのよさや、自分のために手助けしてくれる人たちの行動に目を向けられていない。 ・教師からあいさつをしたら、どの子もあいさつを返すが、「言われてからあいさつをする。」という妙な習慣がついてしまったような気がした。 ・最高学年としてあいさつや返事は意識してできているが、下学年への声かけなどが課題。 ・「振り返り」が上手にできるのに、「感想発表」「反省」になると、内容が薄くなってしまふ。 ◆指導者としての課題 ・週1回実施している「なかよし集会」が子どもたちの自主的な活動になっていない。 ・「進んであいさつ」「感想発表」「反省」「振り返り」などの表現が、子どもにとってあいまいで、わかりにくいものになっている。 ↓ 【改善点】 ○取組指標の向上及び見直し ・全校児童が学期に1回以上発言するために、学校行事やなかよし集会で振り返りの場を持つ。 ・学期に2回、みんなで遊ぶ日を設定する。 ・学期に2回、ペア学年による「ほんわか交流」を実施する。 ・なかよし集会で、たてわり班を活用し、月1回の振り返り活動と学期に2回の「ほんわか交流」を実施する。</p>
										<p>家庭 子どもと一緒に学習する時間をつくる。</p>	<p>○保護者が、学期に2回の家庭学習強化週間で、宿題が終わった後のノートやプリントを確認し、カードに励ましのコメントを書く。</p>	<p>生活指導主任を中心としたチームB</p>	<p>A</p>	<p>○タオルを1週間使ってから交換から、ハンカチを毎日持ってきて使うことにかわったことがとても良い。 ○学校における歯磨き指導の徹底がされていると感じた。家庭での親の生活習慣を改めることも必要だと感じた。 ○学校の生活アンケートを含め、成果を上げている。 ○一人ひとりの児童をよく見て、指導されていてすばらしい。 ○少人数の子どもたちの心豊かに成長して、大きくつまづくこともないように折りたいた。 ◆耐える心も大事なので、評価項目の中に、「がまんできたか、がまんできるか」の項目があっても良いと思う。 ◆引き続き現状で取り組んでいただき、その中で子どもたちに必要なことを特にお願したい。</p>	
										<p>地域 学びの教室・参観日への参加を通して積極的に学習支援を行う。</p>	<p>地域の方が、 ①読み聞かせを実施する。(毎週水曜日) ②学びの教室指導を実施する。(年間40回以上) ③ゲストティーチャーとして支援する。(年間を通じて全学級で) ・学校公開日に積極的に参加する。</p>	<p>生活指導主任を中心としたチームB</p>	<p>A</p>		